

2015/7/15 20:50

神戸連続児童殺傷 「絶歌」出版に遺族が法規制要望



加害者の出版を法規制するよう求める要望書を提出後、記者会見する土師守さん（右）＝東京都千代田区、司法記者クラブ

[拡大](#)

1997年に神戸市須磨区で起きた連続児童殺傷事件の加害男性（33）が手記「絶歌」を出版したことについて、殺害された土師淳君＝当時（11）＝の父守さん（59）が15日、東京都内で会見した。「子どもの命を奪われただけでなく、さらなる被害に遭うことは起きてはならないこと」と、加害者の出版を規制する法整備の必要性を訴えた。

会見で守さんは「事件から18年かけて立ち直りかけてきた時に（出版で）再度の精神的被害を受けた。加害男性に抱いてきた

私たちの思いも踏みにじられた」と怒りをにじませた。さらに「元少年A」と匿名で出したことに、「成人男性が少年法の陰に隠れて責任を回避しているのは非常におかしい」と批判した。

守さんは発行元に回収を求めているが、出版社側の自制が期待できないとして、同日午前、自民党に要望書を提出した。加害者が手記の出版などをする場合には、事前に被害者の同意を得ることを求める内容。「今後の出版や、さらなる被害者が出ないように、何らかの規制をしてほしい」と訴えた。（山本哲志）

加害者の出版、法規制を 「絶歌」問題で遺族が要望書

ツイート 24

8+1 4

神戸市須磨区の連続児童殺傷事件の加害男性（33）が手記「絶歌」を出版した問題で、殺害された土師（はせ）淳君＝当時（11）＝の父、守さん（59）は15日、加害者の出版を規制する法律の制定を求める要望書を自民党司法制度調査会の犯罪被害者支援プロジェクトチーム座長である鳩山邦夫衆院議員に提出した。

要望書は、殺人事件など重大犯罪の加害者が出版する際、被害者・遺族の同意を義務づけた上で、違反した場合には利益没収などの措置を講じるよう求めた。鳩山氏は「被害者の遺族は一生被害者。守る必要がある」と前向きに応じた。

土師さんはこの後、東京都内で記者会見し、「加害者に子供の命を奪われ、手記によりさらに被害が起こる。再被害から守られるべきだ」などと訴えた。この法制度を求める会の共同代表の後藤啓二弁護士は「加害者や出版関係者は被害者・遺族に犠牲をもたらさないような自制をすべきだが、期待できない」と法整備の必要性を強調した。

同書は6月に太田出版（東京）が出版。ベストセラーランキングで上位に入る一方、一部の書店や図書館が販売や貸し出しを自粛するなど問題化していた。



神戸連続児童殺傷事件の加害者が執筆した「絶歌」出版に対し法的な整備を法務相に申し入れ、会見する被害者遺族の土師守さん＝15日、東京・霞が関の司法記者クラブ（寺河内美奈撮影）